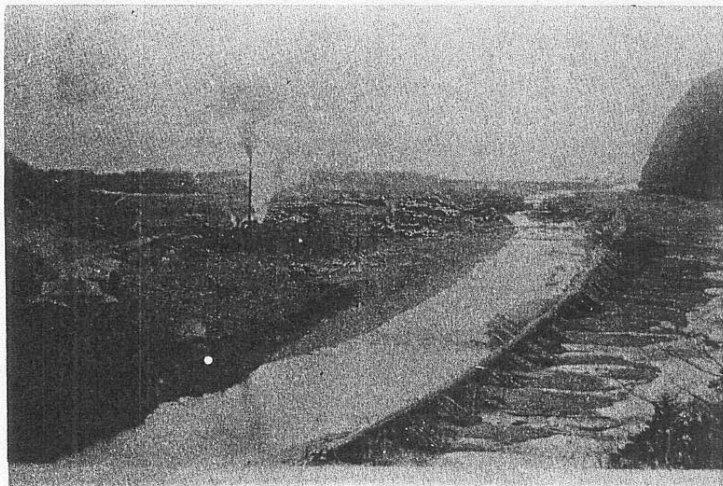




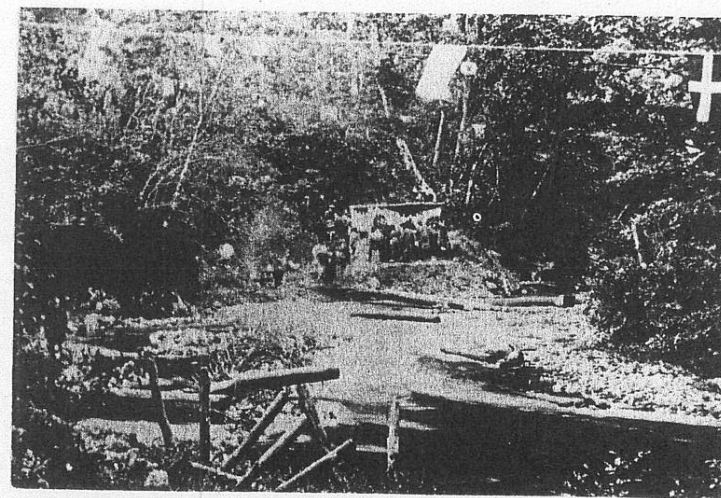
明治35年高尾道徳氏によって創立された製材所で日高管内としては最初
のものと云われている。



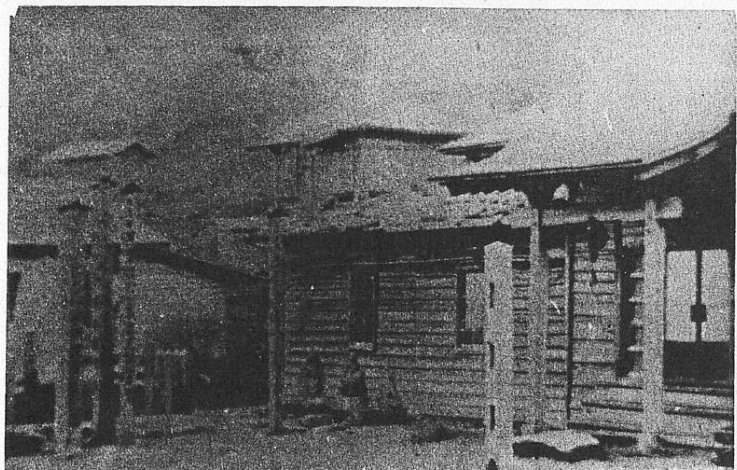
大正2年に撮影した赤心社商店と従業員



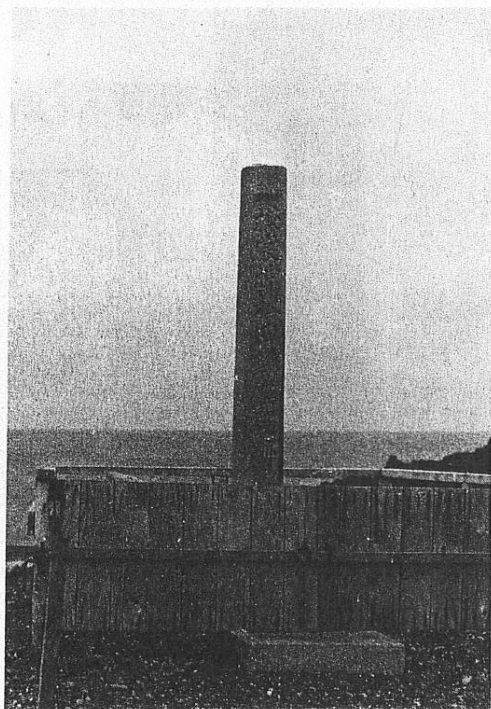
大正9年実施した日勝道路の踏査記念写真である。
日勝道路は昭和40年に開通しているが、古くから日高町民の願望であっ
たことが伺われる。



明治末期新様似地区に於いて、水銀鉱が発見されたがそのお祝いの風景。



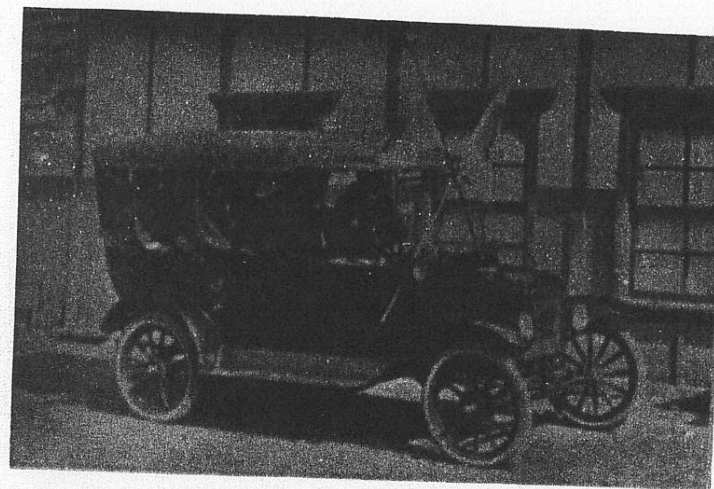
文化元年（1804年）東叡山僧、秀暁法印の開基となる等澗院現在は改築されている。



約 150年程前島屋嘉兵衛という人によって建立されたと云われているが、現在はその跡の碑と当時の鳥居の倒壊した一部が残っている。

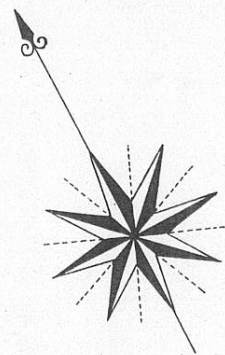


木材、大豆等の産出のため苫小牧軽便株式会社により明治44年に建設された鉄道の佐瑠太（沙流太）停車場で、日高管内初の鉄道であり、駅は現在の富川駅である。



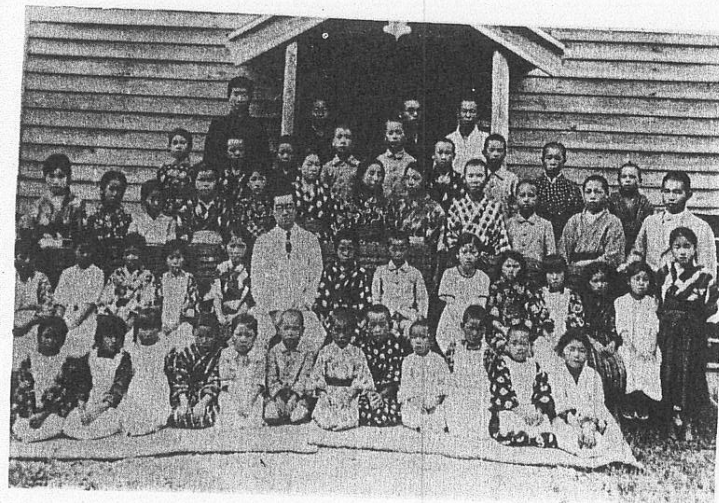
大正3年頃、静内ー富川間を走った自動車でこの区間の料金は1円90銭とされていた。
現在にすれば約 1,800円程となり相当高い運賃である。

支庁管内図

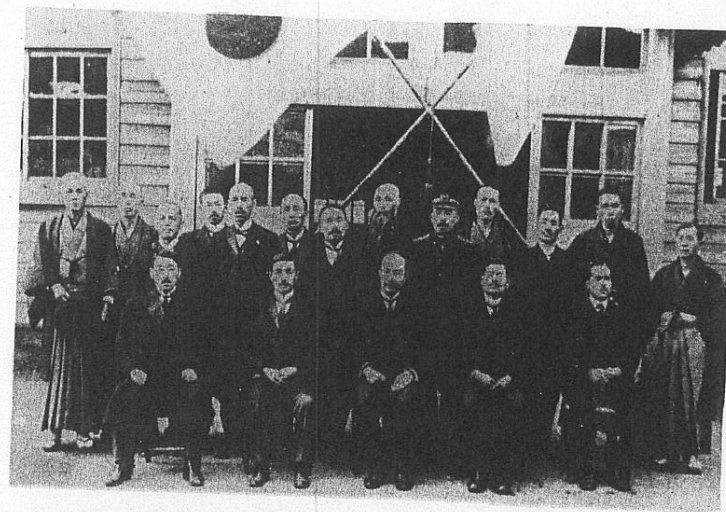


十勝支庁

太平洋



大正初期に創立された赤心社キリスト教会日曜学校の生徒（荻伏村）



第14代北海道長官来浦の節（大正7年頃）に官公庁の長などが浦河小学校前で撮影したもの。

（前列中央が長官左より2人目那須支庁長）